

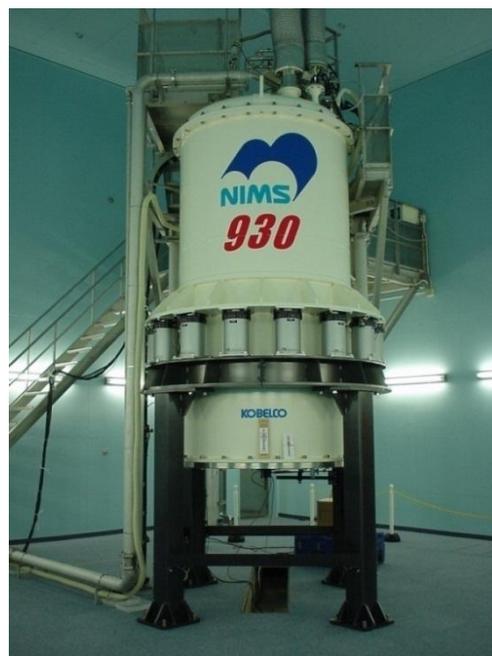
追悼文 “磁気科学を支え続けた研究者逝く”

長年の友であり、同僚であった木吉 司氏（日本磁気科学会磁場発生分科会長）が、去る平成 25 年 1 月 25 日、53 年の生涯を閉じられました。そのあまりに早すぎる別れに、彼を知る誰もが言葉を失いました。木吉 司氏は 1988 年東京大学において工学博士の学位を取得したのち、科学技術庁金属材料技術研究所（現物質・材料研究機構）で研究者としてのスタートを切りました。その当時、強磁場マグネット群を開発する大型プロジェクトが開始されており、彼は、材料研究機関であるにもかかわらず、マグネットの専門家になることを要請されました。以来、世界最高級超伝導マグネットを次々と実現し、国際的に名を知られたマグネット研究者に成長しました。最近では、世界の専門家に伍して、パリ近郊の脳研究センター NeuroSpin において開発中の 11.7T (500MHz) whole-body MRI マグネットの技術評価委員を務めていました。

彼が手懸けた世界的な超伝導マグネットとして知られているのが、920MHz と 930MHz の NMR マグネットです。これらは当時世界最高磁場の NMR マグネットであり、現在に至るまで、国内外の研究者によりタンパク質の構造解析や固体 NMR の研究に利用されています。さらに、1GHz を超える超高磁場 NMR マグネットや高温超伝導体を用いた MRI マグネットなど、彼の挑戦は続くはずでした。

一方で、木吉氏は、強磁場共同利用施設（Tsukuba Magnet Laboratory）のマグネット技術責任者として、国内外の多くの研究者をサポートしてきました。日本磁気科学会の会員にもその恩恵を受けた方が多数おられると思います。彼はまさに磁場と多様な分野の研究者との架け橋であり、磁場発生分科会を通して、本学会へ多大な貢献をしてきました。木吉氏は平成 23 年年度から 2 年間、物質・材料研究機構の研究企画を担当していました。その務めを終えて本年 4 月から研究現場に復帰しようとしていた、まさにそのとき、天は彼を召されました。研究の新たな扉を押し開き、絶頂へと向かう、まさにその開花の園に足を踏み入れようとしていた彼を！

本学会諸兄もよくご存じのように、彼は自己を語ることの少ない人でした。そのような彼が、運動の才に恵まれた一人息子の話をするとき、実に嬉しそうにしたのを思い出します。その成長をどれほど楽しみにしていたかに想いを巡らすとき、この突然の別れは彼を知る者にとっても無念の極みです。ここに心からご冥福をお祈りいたします。



和田 仁
元物質・材料研究機構強磁場研究センター長
東京大学名誉教授